

令和7年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

令和 8年 4月 14日

団体所在地 広島市佐伯区五日市5丁目 6-25

団体の名称 株式会社 桜の杜

職・氏名 代表取締役 東 真弓美

(施設名 さくらの杜ひより保育園)

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・休耕田で虫探しや草花摘み
- ・休耕田の傍の用水路の水をつかって遊んだり
草花を流して遊ぶ
- ・サツマイモの水やり

【7月～9月】(夏季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・サツマイモの水やり
- ・休耕田で虫探しや草花摘み
- ・休耕田の傍の用水路の水を使って遊ぶ
- ・三篠川の浅瀬での川あそび

【10月～12月】(秋季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・サツマイモの水やり
- ・サツマイモ堀り
- ・焼き芋体験
- ・山遊び
- ・自然散策

【1月～3月】(冬季)

(活動内容)・箇条書きで実施した内容を羅列

- ・山遊び
- ・焚火
- ・休耕田での泥んこ遊び
- ・自然散策

活動報告（詳細）

1シーズンにつき最も印象的だった活動のエピソード1つご記入してください。

エピソードは、活動プロセス、保育者の関わり、子どもの育ちの見取りを端的にお願いします。

写真は基本1枚です。

【4月～6月】

(写真)



(エピソード記述)

園バスでさくらの杜白木へ行く道中、どんなことをするのかなとワクワクする表情がみられた子どもたち。普段の生活ではなかなか体験できない休耕田で小さな生き物を見つける。小さな生き物をみつけて近づいたりのぞき込んだり草花を摘んだり用水路に流して遊ぶ姿がみられたが自然の中での経験の少なさもあってか自分から遊びに繋げることは難しかった。保育者が自然物を使い、遊び方を見せたり伝えることで友だちと一緒に遊びにつなげようとする場面がみられ、活動中にドキドキする様子が表情で見られることもあった。一人ひとりが思い思いに自然の中での活動を繰り返しおこなうことで楽しんだり自然の魅力を子どもたちが感じてほしい。

【7月～9月】

(写真)



(エピソード記述)

さくらの杜白木から園バスで三篠川へ移動し、ライフジャケットを着用し、川遊びを楽しむ。子どもたちは保育者と一緒に川に入り水の流れを利用して浮かんでみたり、水の中にある石を拾ったり水を触ったり網やバケツをつかって嬉しそうに遊ぶ様子が見られる。浅瀬の小さな石を水の中で拾い、大きな石の上に積み重ねたり、水の中にいる小さな魚を含む生きものを保育者と一緒に網ですくってみたり触ることで自然の生き物を直接体感することができた。水が苦手な子どもがいたが水際で手と足だけを水につけたり水をかけあって遊び、楽しんだ姿もみられた。水が苦手な子どもにも小さな生き物を見せたり触ったりすることで自然の中の楽しさが感じられる活動になった。

【10月～12月】

(写真)



(エピソード記述)

春に苗を植え、白木での活動時には毎回ジョウロを使って保育者と一緒に子どもたちも水やりをして育てたサツマイモの芋ほりをおこなう。芋ほりをする前に子どもたちとサツマイモの葉っぱを見たりつるを引っ張ったりするなど芋ほり前も楽しんだ。実際につるを引っ張ると地面からなかなか抜けず手を使って土を掘ると芋が土からでてきて「みてみて、おいとれた～」と掘りだした芋を保育者に嬉しそうに見せる子どもたち。収穫後は、休耕田に芋を運び新聞紙とアルミホイルを巻いてすくもの中に入れて焼き芋をつくる。すくもの中で焼けた芋をみんなで嬉しそうに食べる。芋ほりからすくもを使い焼き芋を体験し、収穫体験をしたり採れたての食材を食することで食育にもなり笑顔いっぱいの活動ができた。

【1月～3月】

(写真)



(エピソード記述)

冬になり自然の生き物たちの活動が落ち着いているので山の中の散策を楽しみ、秋から冬にかけて落ちた木の実や枯れた葉っぱを集めて楽しんでた。斜面を繰り返し上がったたりおりたりすることで上手にバランスをとりながら嬉しそうに何も持たずに斜面をおりる子どもの姿も見られるようになってきた。斜面をおりることが怖いと感じる子どもは保育者がお尻を斜面につけて滑っておりると怖くないことを伝えると自ら斜面を滑り台感覚でおりる姿が見られるようになった。自然を体で感じることで出来ないことにもチャレンジしたり保育者や友だちの様子を見てやってみたい気持ちにもつながった子どももいたので言葉だけで伝えるのではなく実践で楽しさと同様に危険なことも伝えていける保育を行っていきたい。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について

（例）こども環境管理士を担当保育士が取得（12月）

- ・ 子どもたちの安全を第一に考えながら活動の場の整備や職員の研修を定期的に行うことで職員が誰でも白木の活動を意欲的に保育をする
- ・ 危機管理研修に積極的に参加し危機管理に対しての向上を図る

- ・ 地域との関わりについて

（例）専門知識のある地域の方に園庭のぶどうの木の選定や野菜づくりを月一回交流（毎月）

- ・ 地域に在住の専門知識のある方に子どもたちが使っている休耕田の整備や山の整備の仕方を教えていただいたり、サツマイモの畑の土づくり、畝づくり、苗の植え方、芋ほり、焼き芋などを行い交流する

- ・ 保護者との関わりについて

（例）果物や野菜を保護者と一緒に収穫（毎月）

- ・ 子どもたちが現地で見つけて採った自然物を袋に入れて園に持ち帰り、保護者と一緒に見たり触ったりする（毎月）

- ・ その他

＊より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページや SNS の URL をご記入ください。

U R L	http://sakuranomori-smile.com
-------	---